

要望演題 | 1-07 カテーテル治療

## 要望演題3

### カテーテル治療

座長:

大月 審一 (岡山大学病院)

小林 俊樹 (埼玉医科大学国際医療センター)

Thu. Jul 16, 2015 11:00 AM - 11:50 AM 第5会場 (1F アポロン A)

I-YB3-01~I-YB3-05

所属正式名称: 大月審一(岡山大学病院 小児循環器科)、小林俊樹(埼玉医科大学国際医療センター 小児心臓科)

## [I-YB03-04]左心低形成症候群フォンタン到達率向上のための Modified hybrid strategy

○葭葉 茂樹<sup>1</sup>, 小林 俊樹<sup>1</sup>, 安原 潤<sup>1</sup>, 清水 寛之<sup>1</sup>, 熊本 崇<sup>1</sup>, 小島 拓朗<sup>1</sup>, 住友 直方<sup>1</sup>, 鈴木 孝明<sup>2</sup>, 枘岡 歩<sup>2</sup>, 宇野 吉雅<sup>2</sup>, 加藤木 利行<sup>2</sup> (1.埼玉医科大学国際医療センター 小児心臓科, 2.埼玉医科大学国際医療センター 小児心臓外科)

Keywords: HLHS, Hybrid stage 1, PABs

【背景】 HLHSに対する Hybrid stage 1 (両側肺動脈絞扼術 PABs, 動脈管ステント PDAS) は退院を可能とし, 生後5-6ヶ月の Stage 2 Norwood + BDGを想定した palliationである. しかし Norwood手術を乳児期早期に行う症例がある. 【目的】 症例毎に至適な“Modified hybrid strategy”を考える. 【対象】 当院で Hybrid stage 1を行った16例. 大動脈閉鎖(AA) 7例, 大動脈狭窄(AS) 9例. 【方法】 Hybrid stage 1での PABs周径, Stage 1後の逆行性大動脈弓狭窄(RAAO), 心房間狭小化が, inter-stageおよび Stage 2以降の経過に影響を与えたかどうかを後方視的に検討. 【結果】 ・ Inter-stage Norwood 6例 (AA, AS : 50, 33%, p 0.05\*), Norwood + BDG 6例 (29, 45%, p 0.08). ・ Hybrid stage 1周術期生存率94%. Stage 2到達率50% (AA57, AS44%). Fontan到達率31% (29, 33%), 最終生存率50% (14, 67%, p 0.05\*). ・ PABs周径 AA : 10.8 (8.5-12mm). re-PABs 1例 (周径12mm), 術後 N2使用1例 (周径11.8mm). いずれも Norwood後 LOS. AS : PABs周径11.4 (10-12.5mm), re-PAB 1例. ・ RAAOに対する stent strutバルーン拡張, AA 1例 (Stage 2後右心不全で ECMO管理). AS 2例 (Stage 2後高 SVC圧1例). ・ AS死亡3例中2例は心房間狭小例. 【考察】 ・ AAでは5-6ヶ月時の Norwood + BDGは難しく, Hybrid stage 1後の心機能低下, TR悪化を防ぐため, PABsを ASより tightにする. ・ RAAOの出現を回避するため stent jailは最低限にする. 大動脈側の PDA組織を stentがカバーできない可能性があるため, inter-stage Norwood前後で CoAに対するインターベンションを積極的に行う. ・ 酸素飽和度低下, RAAO出現が inter-stage Norwoodのタイミング. ・ BAS効果不十分な心房間狭小例には早期に stentを留置する. 【結語】 AAに対しより tightな PABsを行い, Stage 2前に Norwoodを行う Modified hybrid strategyにより, Fontan手術への到達率, 生存率を向上させる可能性がある.